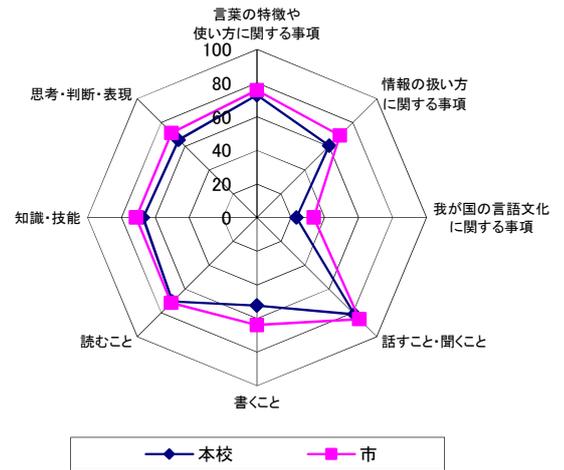


# 宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.9	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	60.5	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	23.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	81.4	85.5	86.5
	書くこと	52.3	63.9	65.8
	読むこと	70.5	71.6	69.5
観点別	知識・技能	67.2	71.3	72.9
	思考・判断・表現	65.4	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

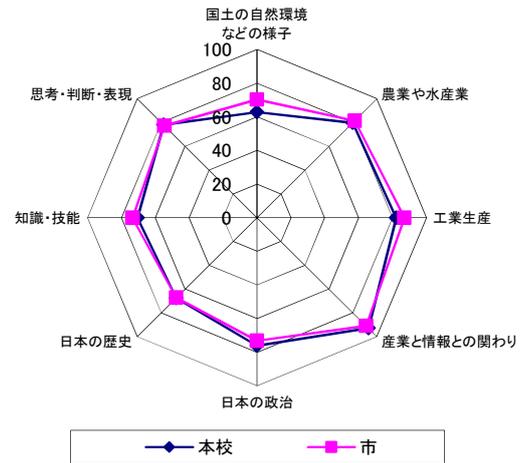
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○第6学年に配当される漢字の読みの問題の正答率が高い。 ●第5学年に配当される漢字の書き取りの問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教科書などを活用し、学習した漢字や文法を朝の学習や国語の授業で復習をしたり、意識しながら話したりする活動を設ける。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解する問題の正答率が低く、情報同士の関係を捉える力が十分でない児童が見られる。	・情報と情報との関係について改めて授業で触れたり、図などを用いて情報と情報との関係を視覚化する活動を行ったりする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する問題の正答率が低い。	・我が国の言語文化に親しめるように、和語・漢語・外来語に触れる機会を多く設定していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題は、正答率が高い。 ●インタビューの中で、意図に応じた質問の工夫として最も適切なものを選ぶ問題については、正答率が低い。	・基本的な話し方や聞き方を確実に押さえ、話し手の目的や自分が聞こうとする意図を意識して聞く活動を取り入れたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く力がおおむね身に付いている。 ●目的や意図に応じて書き表す問題の正答率が低い。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率が低い。	・相手の目的や意図を正確に把握し、自分の目的や意図に合った書き表し方を工夫する学習に引き続き取り組ませたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○物語の描写から、登場人物の心情や様子を捉えることのできる児童が多い。 ●物語の全体像を具体的に想像したり、文章全体の構成を捉えたりする問題の正答率がやや低い。	・物語文のあらすじをまとめたり、説明文の文章の構成を正しく理解したりできるような学習に取り組ませたい。

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.8	70.3	66.4
	農業や水産業	79.8	81.6	75.3
	工業生産	82.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.0	91.0	81.3
	日本の政治	76.2	73.2	75.3
	日本の歴史	67.4	67.4	68.5
観点別	知識・技能	70.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	78.0	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

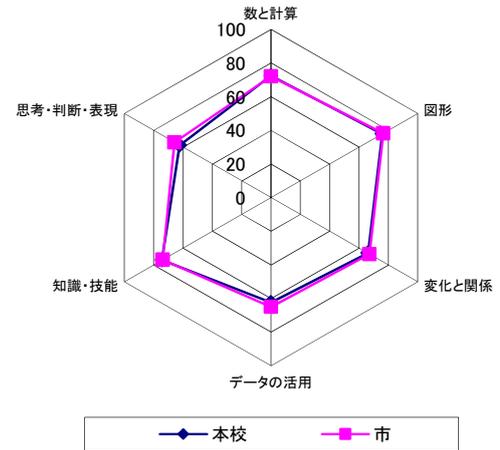
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○人工林の役割についての正答率は81.4%であり、市の平均正答率よりも1.4ポイント高い。 ●季節風についての理解に関する問題の正答率は44.2%であり、市の平均正答率よりも14.3ポイント低い。	・つゆ、台風、季節風は日本の気候を特色づけている現象であることを理解させるとともに、地形との関連についても確認する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ○米の品種改良についての正答率は72.1%であり、市の平均正答率よりも5.8ポイント高い。 ●水揚げされた魚の出荷作業における工夫についての正答率は86%であり学習した内容を理解しているが、市の平均正答率よりも8.9ポイント低い。	・今後も、授業の中で資料を丁寧に読み取る活動を取り入れ、地域の特性を確認したりして、日本の食料生産について理解することができるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本の工業生産の正答率は、すべて市の平均正答率を下回っているが、自動車の製造工程や安全性の高い自動車づくりについては正答率が85%を超えており、よく理解できている。	・日本の工業の特色についての理解を深めるために、資料をもとに分かったことを文章でまとめたり、説明したりする活動を多く取り入れていく。資料の読み取りについては、時間的な見方や考え方に着目できるようにするとともに、時代背景とも関連して読み取ることができるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より高い。 ○情報の発信と受信の注意点についてよく理解しており、市の平均正答率よりも6.3ポイント高い。 ●情報を生かした産業についての正答率は90.7%であり理解しているが、市の平均正答率より2.4%低い。	・今後も社会科としての情報に限らず、生活の中で情報について適切に活用する力を養うことで、更に情報についての理解を深めていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より高い。 ○租税の役割について答える問題の正答率は79.1%であり、市の平均正答率を12.1ポイント上回った。 ●日本国憲法についての理解に関する正答率は72.1%であり、市の平均正答率を9.1ポイント下回った。	・常日頃から、時事的な話題を取り上げ、政治の仕組みについての理解を深めていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と同じであった。 ○中大兄皇子が行ったことについての正答率は90.7%であり、市の平均正答率を9.3ポイント上回った。 ●豊臣秀吉の業績について答える問題の正答率は69.8%であり、市の平均正答率を11.1ポイント下回った。	・既習内容を定期的に復習し、知識がしっかりと身に付くようにしていく。 ・人物と内容が結びつくように、視覚教材や図書などを利用して理解を深められるようにする。

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.5	72.1	74.6
	図形	75.7	76.5	76.1
	変化と関係	66.0	67.1	59.7
	データの活用	62.3	65.0	64.5
観点別	知識・技能	74.3	73.8	74.7
	思考・判断・表現	62.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

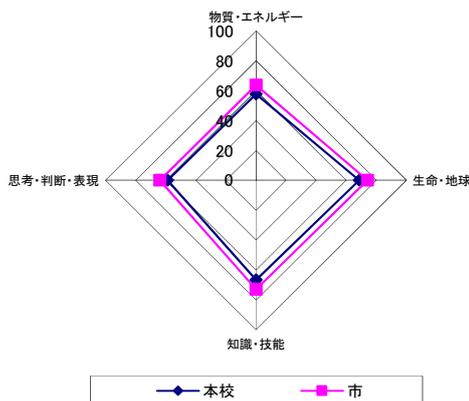
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○小数どうし、分数どうしのかけ算やわり算の計算について計算の仕方をほとんどの児童が理解している。</p> <p>○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。</p> <p>●文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表すことが十分ではない。</p>	<p>・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で基礎・基本の定着を図っていく。</p> <p>・文章問題の意味を理解し、立式できるように繰り返し練習させ、習熟を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○三角柱の展開図を組み立てたときに、重なる頂点を理解している。</p> <p>○3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する方法をよく理解している。</p> <p>●正多角形の中から、点対称な図形を選ぶ力が十分ではない。</p>	<p>・図形の公式を活用した応用問題にも取り組み、習熟を図っていく。</p> <p>・対称な図形について、実際にかいたり具体物を活用したりすることで定着を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊あたりの値段が安いのか理解している児童が多い。</p> <p>○基準量と割合から、比較量を求めることはできていた。</p> <p>●単価が異なるセットを1つずつ買ったときの、ノート1冊あたりの値段を求める力が十分とはいえない。</p>	<p>・単位量あたりの大きさについては、応用問題なども含めて朝の学習や家庭学習で引き続き実施し定着を図る。</p> <p>・基準量と比較量を見極めて割合を求める学習を繰り返し指導して定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○ドットプロットから最頻値を読み取る方法について理解している。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明することが苦手な児童もいる。</p>	<p>・データの活用で扱う語彙の意味を理解し、計算によって値が求められるよう、繰り返し指導し定着を図る。</p> <p>・日頃から、自分の考えや理由を言葉で表現できるよう、繰り返し指導していく。</p>

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	57.7	63.8	61.6
	生命・地球	68.6	74.1	73.3
観点別	知識・技能	66.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	58.7	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「電流のはたらき」では、電磁石の性質を指摘する設問において、市の平均を4.3ポイント上回った。</p> <p>○「水溶液の性質」の設問において、リトマス紙の反応と水溶液の液性についての設問では、市の平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>●「水溶液の性質」の蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には気体が溶けていることを記述する設問では、市の平均を21.8ポイント下回った。</p> <p>●「ふりこのきまり」の設問では、ふりこの周期の測定方法や実験の方法と結果から、ふりこの条件の推測についての設問における正答率が市の平均より低かった。</p>	<p>・目的に応じた実験計画を児童が立案できるようにするために、課題を明確にし、科学的な見方・考え方を働かせ、実験や観察に取り組めるように、既習事項や生活経験を生かした授業展開を行い、自ら解決しようとする児童の育成に努める。</p> <p>・朝のがんばりタイムや家庭学習の課題において、実験結果を考察しまとめられるようなプリント学習を行い、問題を読み取る力を高められるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」の脈拍についての設問では、市の平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>○「月と太陽」の設問では、月の位置と見え方を調べる実験で、ボールが表すものを指摘することができるかという設問では、正答率が90%を超えていた。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」では、葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える設問について、正答率が市の平均より、10.3ポイント下回った。</p> <p>●「流れる水のはたらき」の基礎的な知識を問われる設問では、正答率が市の平均より28.8ポイント下回り、無回答が23.3%であった。</p>	<p>・図やモデル、映像教材、タブレットなどを活用して視覚的に理解できるようにするとともに、学習内容と実生活との関連に気付かせる機会を多く取り入れる。</p> <p>・基礎的な知識を覚えるために、プリントやタブレットを用いて繰り返し学習していく。</p>

## 宇都宮市立豊郷北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	授業への取組についての設問では、前向きな態度で授業を受ける様子が見られる。しかし、中学年以降において、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」という項目について課題が見られた。6学年の学力調査においても、「思考・判断・表現」は市の平均を下回るものが多い。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	授業への取組についての「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」では、各学年に課題が見られる。6学年の学力調査の社会において、「思考・判断・表現」は市の平均を上回っているがそれ以外の教科では、下回っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着」は、児童の能動的な授業への取組につながり、基礎基本となる知識・技能を身に付けることができるものである。今後もこのことを意識して授業を展開していきたい。

「学習のねらいを達成させるための学び合い」については、本校の研究課題である、特別活動における話し合い活動を基に協働的な学びの研究を積み重ねてきた。児童が主体的に学ぶ取り組みを授業内に設定することで、本時の課題について、児童が自分の思いを友達に伝えたい、聞きたい授業につながったと考えられる。今後は、自分の言葉で本時の学びを整理し表現できるように、時間の確保や授業形態を工夫し実践することで、児童の思考力・判断力・表現力の向上に努めたい。